

Case Study

支部ケース・スタディ

信越支部

情報発信の新戦力! Webサイトでファン獲得

上越ケーブルビジョン(株)

放送部 課長
佐藤 康司



テレビ、ラジオに次ぐ媒体 Webサイト「上越妙高タウン情報」開設

新潟県の南西部、上越市と妙高市をエリアにサービスを展開する上越ケーブルビジョン(株)(以下JCV)は、2016年11月、開局30周年を機にテレビ、ラジオに次ぐ新たな媒体として地域情報を発信するWebサイトを立ち上げた。サイト名は「上越妙高タウン情報」。これによりリアルタイムで情報発信することが可能になった。

JCVでは開局当初からコミチャンのデイリーニュースを看板番組とし、地域情報の発信に力を入れてきた。これまでも、これかもその姿勢に変わりはない。しかし目まぐるしく進化を遂げるITの波、スマートフォンの普及。新サービスはもちろん、情報発信の手法も時代の変遷に対応していかなければ生き残れない時代だ。インターネットへの情報発信は避けては通れない必然の流れだった。



▲Webサイト「上越妙高タウン情報」
(<https://www.joetsu.ne.jp/>)



◀「上越妙高タウン情報」タブレット画面



◀上越ケーブルビジョン(株)(JCV)局舎

群雄割拠の地域メディア ネット発信で新たなファン獲得

JCVの本社がある上越市(人口19万人)は新潟県で3番目に人口が多いまち。大手新聞社や民放各社は支局を置き、精力的に取材活動を展開している。加えて地元新聞社や、フリーペーパーなどの地域メディアも多数存在し、各社情報発信にしのぎを削っている。

近年はネットへの情報発信が活発化し、全国ニュースのみならず、地域情報もネットから入手することが普通

の流れとなっている。その日の情報がネットに発信されれば、瞬く間にSNSを通じて拡散され、地域の問題になる。話題性はもちろん、配信スピードも求められている。

こうした流れのなか、JCVは既存のテレビ、ラジオと連携しながらネットで情報発信を開始した。地元のニュースを中心に、イベント、グルメ、新店などの記事に加え、四季折々の風景動画や、エリア内に設置した40か所以上のライブカメラの動画が視聴出来る。

これまではテレビやラジオのニュース枠に限られていた情報発信が、Webサイトの開設により、時間や本数の制約なくリアルタイムに発信できるようになった。ニュースの枠に収まり切らないことを理由に割愛してきた情報も、いまではネットを介してスピーディーに情報発信出来ている。

開設から2年、フェイスブックやツイッターなどSNSと連携しながらファンを増やし、地元では発信力のあるサイトとして認知されるまでになった。一方で、故郷に関心を寄せる地元出身者が、エリア外から閲覧している実態も見えてきた。予想に反して地域外への浸透も進んでいるようだ。



「上越妙高タウン情報」月別アクセス数。昨年12月は過去最高の80万アクセスを超えた。災害時や大雪の日はライブカメラの閲覧が増加。アクセス数は通常の数倍以上に

ハイブリッドキャストで実現 ネット記事がテレビでも

Webサイトの利用者が増える一方で、テレビとネットの連携が課題となった。このサイトでは、テレビニュース用に取材した内容を、夕方の放送よりも早く記事として配信している。記事の中ではニュースの放送日時をしっかりとPRすることで、テレビ視聴への誘導の役割を果たしている。

しかし、年配者のなかには「情報収集はテレビだけが頼り」という加入者も少なくない。実際に「テレビでWebサイトの情報は観られないのか」という声も聞かれた。ネットが苦手、スマートフォンを使用しないという加入者の声を受け、サイトに配信している情報を、同時にテレビで気軽に読めるようにした。

そこで導入したのがハイブリッドキャストの技術。コミチャンのデータ放送を入口とし、簡単なりモコン操作のみでサイトの最新記事がテレビを通じて読めるようになった。

ネット記事は1日平均6本以上、年間2,000本以上を配信している。テレビではこのうち最新記事20件が閲覧できる。

このサービスを利用するには、ハイブリッドキャストに対応したテレビで、なおかつインターネットに接続する必要がある。このため、すべての加入者がサービスを利用できる現状にはない。しかしハイブリッドキャストがテレビとネットを融合させる架け橋になったことは紛れもない事実だ。



ハイブリッドキャストで実現したサイトとテレビの連携。テレビ画面でもサイトの記事が読める。一日平均6本以上の記事がアップされる。テレビ画面では最新の記事20件が閲覧可能。観たい記事に合わせて、決定ボタン押すと記事と写真が表示される

Webサイトは可能性未知数 加入者特典、見逃し視聴も開始

Webサイトは、情報発信の媒体のひとつであるが、ネット配信の特性を生かすことで、テレビ番組への利活用が期待できる。特性の最たるひとつが、配信した記事の反響が数値としてわかること。一つ一つの記事が、どれだけ読者に読まれたか、関心が高かったのか、低かったのか、数値で知ることが出来る。利用者の興味関心など傾向が容易に分析できるため、これらのデータをテレビ番組の制作に生かさない手はない。応用の可能性は未知数だ。

また昨年11月からは、Webサイトで加入者限定のプレミアム会員サービスも開始した。これは加入者特典のひとつで、コミチャンで放送したニュースや特別番組などの見逃し視聴が出来るサービス。同時に、毎朝放送しているお天気番組もライブ配信している。記事だけでなく、ケーブルテレビの強みである映像を積極的に配信することで、他サイトとの差別化を明確にし、唯一無二の地域情報サイトとしてファンを獲得している。今後は、Webサイトからインバウンド向けの観光情報を発信していく予定だ。



加入者限定のプレミアム会員サービス。サイト上で過去5日分のニュースや情報番組、特別番組などが視聴できる

情報発信は、地域に根差したケーブル局の使命であり、サービスの要である。情報過多の時代であるからこそ、地域情報が埋もれてしまわないよう、時代にあった発信を続ける必要がある。地域に愛されて止まないケーブルテレビ局であり続けるためには、足を止めないリアルタイムの情報発信を続けることが今求められている。